

広報誌（会報）とHPの違い

両者は基本的に別物である。夫々に長短ありお互いに補完しながら有効な関係を維持しつつ相乗的な効果を生み出す努力をするのが良い。

●広報誌とHPとの関係

広報誌（会報）とHPとの比較

	広報誌	HP
費用・労力	高	低（でも可能）
閲覧者	限定	広範
迅速性	低	高
お気軽度	高	低
今後の展開	現状維持、但し効率化は必要	情報戦略の起点として活用

運営コスト

広報誌については、原稿を集めて編集を行い、印刷・製本したものを、郵送・手交で会員へ届けるという手間暇がありますので、当然ながら費用が発生します。内容の優劣に関係なく、最低限必要なコストが掛かる。

HPについては、無料サーバー・無料ソフトがあり、その費用を押さえることも可能です。反対に、有料編集ソフト（イニシャルコスト）及び有料サーバー使用料（ランニングコスト）はピンキリです。本格的には外部委託もありえる。

閲覧者の範囲

広報誌については、会員や関係諸団体への配布ということで、閲覧者の範囲は限定的です。一般の人は、その存在すら知らないかもしれません。その内容については、自ずと会員向けの情報が多くなります。

HPについては、会員限定のページ等を除き、インターネット環境さえあれば誰でも自由に閲覧できるものであり、閲覧者も多種多様です。と申しても、斯様な環境にある事は確かですが、実際のアクセス者は殆ど会員である。その内容については、会員向けの情報に限らず今後は、会内における調達情報の提供も重要になってくる。

情報の迅速性

広報誌については、これまでの経験を踏まえながら、会員向の正確な情報を中心として、定期的に発行していくというスタンスを維持していけば良いと思います。

HPについては、その歴史も浅く経験も少ないということで、その本格的な活用はこれからだと思います。情報戦略の起点としてホームページを活用するのが良いと考え

ています。つまり、会としての明確なビジョンを明示して、そのビジョンに従って行った活動をみんなに知ってもらうためにHPを活用する、ということです。有限実行と言うことです。

広報誌については、年2ないし3回といったペースでの発行を考えると、情報公開のゴーサインが出てから、数週間から2ヶ月ぐらいでの掲載となってしまいます。そういった意味では迅速性に欠けるのも事実ですが、その分内容の吟味に時間をかけて、正確性を高めることが可能です。また、一度発行したものについては訂正が困難であり、その分リスクが高いとも言えます。

HPについては、情報公開のゴーサインさえ出れば、その日のうちに掲載することが可能です。問題は、そのようなスピードを有効に活用できるための一連の手続（情報収集・加工、内容チェック、掲載の決裁等）が整備される事が前提です。広報誌と比べると、後の訂正・追加が容易であることも特徴です。

紙と Web の違い

紙（広報誌）の特徴は、なんと言っても気軽に閲覧できる事でしょう。パソコンやインターネットなんて難しそうなのは嫌いと言う人でも、雑誌を読むことには抵抗ないと思います。流し読み、回し読み、ちょっと貸して、ちょっと見せてなどリアルコミュニケーションとの関係が深いのも特徴かと思います。実物として郵送で手元に届けられることも、馴染みやすい理由の一つでしょう。Web（HP）の特徴は、インターネット環境さえあれば誰でも閲覧できることの他に、コピーや加工の容易性、情報伝達の速さなどが挙げられるでしょう。今後、はスマホ、タブレット等インターネットとの共存が益々日常化することで、「お気軽度」も上がっていくことでしょう。

情報戦略の起点としてのHP

広報誌については、これまでの経験を踏まえながら、会員向の正確な情報を中心として、定期的に発行していくというスタンスを維持していけば良いと思います。

HPについては、情報戦略の起点としてHPを活用するのが良いと考えています。つまり、会としての明確なビジョンを明示して、そのビジョンに従って行った活動をみんなに知ってもらうためにHPを活用する、ということです。

HPと組織情報化との関係

情報戦略の起点としてのHPを確立する為には、組織・制度を改革して、デジタル社会に対応可能な単位会になる必要があります。電子化を実現する為に執行部や各部との連携・情報共有、価値のある正確な情報を迅速に掲載するシステムなどは、情報化なくしては困難だということです。単位会HPを、会長を含む執行部の直轄として、実際の運営は特別委員会（HP委員会）等で柔軟・迅速に行うというのが良いと言ったのも、HPをどのように活用していくかを考えることが、現在の組織が抱え持つ根本的な問題を明らかにし、その解決方法を示唆してくれると思うからです。現在の単位会レベルであれば、会内の情報フローを整備して、正確な情報を迅速に提供できるような組織編制が大切だと思います。